

ISSN-1348-8872

AMAMI News Letter

NO.3



■特別寄稿

“復帰50周年”を終えた奄美と大学の役割

■研究調査レビュー

全員一致原則の機能と限界 — 奄美諸島の入会権を素材に —

軍政下奄美における人類学調査

離島地域の持続可能性向上に向けた産業育成手法

～屋久島観光業を題材にした検討～

■島嶼スケッチ

公開シンポジウム「新しい奄美世界の創出」に多数の参加者

—プロジェクト研究に地元からの熱い視線—

奄美ニューズレター

鹿児島大学

2004年2月

ISSN-1348-8872

AMAMI News Letter

No.3

February, 2004

Contents

■ Special Contribution

Roles of the KAGOSHIMA University and the 50th anniversary
of AMAMI's return—————1

NAGATA Yukihiro (President, KAGOSHIMA Univ.)

■ Research Review

On the Principle of Unanimity in Iriai-Ken (Village Community)

—A Study of Environment and Community— —————4

UNEME Hirofumi (Faculty of LEH, KAGOSHIMA Univ.)

Under the U.S. Military Government—————10

KUWAHARA Sueo (Faculty of LEH, KAGOSHIMA Univ.)

The New Industrial Development System Enhancing Sustain-
ability in Island Areas

—A Case Study for Sustainable Tourism in Yakushima— ———17

SAKATA Yusuke (Faculty of LEH, KAGOSHIMA Univ.)

■ AMAMI Sketch

A Large Audience at the Public Symposium on "Creation of New
AMAMI"

—Locals' Close Attention to the Project Research— —————23

HIRAI Kazuomi (Director)

■ Information —————25

KAGOSHIMA UNIVERSITY

奄美ニューズレターについて

- 奄美ニューズレターは、2003年度からはじまった鹿児島大学全学総合プロジェクト「島嶼圏開発のグランドデザイン--- 南西諸島における環境ガバナンス型地域政策」の成果を発表する目的で発刊されました。
- 奄美群島および沖縄を含む広い南西諸島を沖縄ではなく、奄美群島から分析しようという新しい試みです。
- 研究は、文化・自然・人・経済・情報・農学・工学という鹿児島大学の研究者を中心とする研究グループによって行われております。奄美ニューズレターは、その研究を広く南西諸島の研究者に公開し、わが国の島嶼研究の向上を目指すものです。
- 奄美ニューズレターは、月刊の学術雑誌であり、下記の内容を毎号掲載いたします。
 - ・研究調査レビュー 鹿児島大学研究グループの成果発表
 - ・しまゆむた 奄美群島区の地元研究者からの現地レポート
 - ・島嶼スケッチ 上記以外の寄稿文
 - ・鹿大資料紹介 鹿児島大学所蔵奄美資料の紹介
 - ・ちーびし 執筆者紹介、奄美関連の行事案内、編集後記
- 奄美ニューズレターの執筆研究グループは以下のメンバーです。

研究代表 山田 誠 (法文) 編集代表 萩野 誠 (法文)

 - 島嶼のなかの人々、人々のなかの島嶼 (資源としてのヒト)
 - ◎神田嘉延 (教育)・小柳正司 (教育)・狩野浩二 (教育)・前田晶子 (教育)
 - 島嶼における情報ネットワーク (資源としての情報)
 - ◎萩野 誠 (法文)・下園幸一 (法文)
 - 自然環境と開発ポテンシャルA (資源としての自然)
 - ◎北村良介 (工学)・地頭蘭隆 (農学)・西隆一郎 (工学)
 - 自然環境と開発ポテンシャルB (環境保全型自立産業としての農業生産)
 - ◎菅沼俊彦 (農学)・津田勝男 (農学)・遠城道雄 (農学)
 - 歴史の変容と開発
 - ◎新田栄治 (法文)・糸尾達哉 (法文)・原口 泉 (法文)・中村直子 (埋文)
 - 産業・経済の変容と開発
 - ◎皆村武一 (法文)・宮廻甫允 (法文)・北崎浩嗣 (法文)・山本一哉 (法文)
 - 社会意識の変容と開発
 - ◎石川英昭 (法文)・木村 朗 (法文)・平井一臣 (法文)・米田健一 (法文)
 - 文化意識の変容と開発
 - ◎廣瀬晋也 (法文)・木部暢子 (法文)・桑原季雄 (法文)・高津 孝 (法文)
 - 島嶼コミュニティと環境ガバナンス
 - ◎篠原隆弘 (法文)・采女博文 (法文)・土居正典 (法文)・西啓一郎 (法文)
 - 島嶼圏政治行政システムと環境ガバナンス
 - ◎山田 誠 (法文)・朴 源 (法文)・坂田裕輔 (法文)・前利 潔 (知名町)

目次

■特別寄稿

- “復帰50周年”を終えた奄美と大学の役割
永田 行博（鹿児島大学長）—————1

■研究調査レビュー

- 全員一致原則の機能と限界
—奄美諸島の入会権を素材に—
采女 博文（鹿児島大学法文学部）—————4
- 軍政下奄美における人類学調査
桑原 季雄（鹿児島大学法文学部）—————10
- 離島地域の持続可能性向上に向けた産業育成手法
～屋久島観光業を題材にした検討～
坂田 裕輔（鹿児島大学法文学部）—————17

■島嶼スケッチ

- 公開シンポジウム「新しい奄美世界の創出」に多数の参加者
—プロジェクト研究に地元からの熱い視線—
平井 一臣（プロジェクト事務局長）—————23

- ちーびし—————25